

2025年度 すくわくプログラム実践記録

園名：おうち保育園あさがや

保育理念

わたしたち保育園は、みんなの未来をつくることに
自ら参加し、貢献し、そして楽しむ心を育みます。

保育目標



共感性

自分の気持ちを大切にし
他者の気持ちも大切にする
こども



内発性

自らの内なる声を聴き
主体的に動くこども



創造性

自由に考え
創造するこども

シチズンシップ保育5つの基本



1,活動のテーマ

<テーマ（こどもたちの興味・関心を深める）>

しいたけ栽培キットできのこを育てて食べてみよう ― 食材への関心を育む食育活動 ―

<テーマの設定理由（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）>

- ・ 乳幼児期は「見て触れて確かめる」ことで興味を広げる時期であり、しいたけがどのように育つのかを実際に観察することで、食材そのものへの関心を引き出すことが期待できるため。
- ・ 栽培から収穫、調理、試食までの流れを一連の体験として行うことで、「食べ物はどこから来るのか」を実感を伴って理解しやすくなるため。
- ・ キットの変化を毎日観察したり、触れたり、匂いを感じたりすることが、乳幼児期の五感を使った学びに適しており、自然への気づきや「ふしぎだね」という探究心につながるため。

2,活動スケジュール

11月26日：準備日（保育者のみの活動。菌床を箱から出し保育室に設置）
11月27日：こどもたちへの導入と水やり
11月28日：水やりと観察二日目
11月29日：間引き
12月1~12月3日：水やり、観察
12月4日：収穫・調理・実食

3,環境設定

- ・ しいたけ栽培キットの配置：湿度・温度が適切に管理でき、普段からこどもの目に入る保育室の一角に設定。こどもが倒したりする心配のない高いカウンターを配置場所にし、朝の会などで水やりをする際にはこどもの目線の高さに合わせ椅子などに移動。
- ・ 観察が楽しくなる絵本を用意：子どもたちがしいたけの育ちに興味を持ち、変化に気づけるように、「きのこが育つ過程」が分かる写真絵本や、さまざまなきのこがどんな料理に変身するのかを紹介した絵本を用意し、朝の会などに読み聞かせをした。

【実践記録】

<p>日付</p>	<p>2025/11/27</p>
<p>「問い」 ・どんな食べ物が育つのかな</p>	<p>保育者からしいたけの菌床について写真絵本を使っの説明がある。「これ何か分かる?」「どんな風にきのこが大きくなるのかな?」「みんなでお水をあげて育てよう、大きくなったら食べてみよう」とつたえる。</p>
<p>探究活動 ・活動中のこどもの姿、声、こども同士やスタッフとの関わり等。</p>	<p>こどもから「きのこじゃないよ」という疑問の投げかけがあり「お水をあげるとここからきのこが出てきて大きくなるんだよ」と保育者が伝えると不思議そうにする様子がある。 「お水をシュッシュしたい人はいますか?」と聞くと、多くの子が積極的に霧吹きスプレーで水を吹きかける。0歳児にも菌床を見せると、興味深げに触る子などもいた。</p>
<p>活動の様子 (写真・映像) ・こどもが夢中で取り組んでいる姿や、学びの瞬間をとらえた写真など (公開OKのもの2枚以上)</p>	
<p>振り返り ・活動を通しての気づき ・こどもの思いや学びの考察 ・保育者の振り返り</p>	<p>全体として、初日は子どもの好奇心が自然に生まれ、それに応じて保育者がわかりやすく伝えることで、活動への期待感を高めることができた。今後、しいたけの変化が見られるにつれて、さらに興味やつぶやきが広がることを見込めるため、日々の観察や子どもの気づきを大切にしながら活動を進めたい。</p>

日付	2025/11/28
「問い」 ・きのこは育ったかな？	今日はきのこさん、大きくなったかな？お水をあげて、もったきのこを育てようと声かけする。
探究活動 ・活動中のこどもの姿、声、こども同士やスタッフとの関わり等。	保育士の声かけに「やりたい」と言って積極的に集まる。初日に行った事を覚えていて霧吹きスプレーを自分たちで持って水やりをする姿があった。菌床に膨らみかけている部分を見つけて「しいたけなってるよ」とこどもから保育者に伝えていた。
活動の様子（写真・映像） ・こどもが夢中で取り組んでいる姿や、学びの瞬間をとらえた写真など （公開OKのもの2枚以上）	
振り返り ・活動を通しての気づき ・こどもの思いや学びの考察 ・保育者の振り返り	変化を観察しようとする意欲や気づきを共有する気持ちが育っていると感じられた。活動を継続することで、子どもたちの興味や探究心がより深まってきていることが確認できた。

<p>日付</p>	<p>2025/11/29</p>
<p>「問い」 <ul style="list-style-type: none"> ・もっと大きくしてみよう！ </p>	<p>生育が目に見えて分かるようになり、保育者から「もっと大きくしてみようか。でっぱりがくっついている所は少し切ってみよう」と伝えて、水やりと間引きを試みる。</p>
<p>探究活動 <ul style="list-style-type: none"> ・活動中のこどもの姿、声、こども同士やスタッフとの関わり等。 </p>	<p>土曜保育のため、登園児少数。2歳児二人で水やりと間引きを行う。水やりは霧吹きスプレーを両手でしっかりと持っている。反対側もやってほしいと保育者が伝えると、自分で移動して水をかけている。</p> <p>間引きでは大きくなっている所を指して教えてくれる。保育者と一緒にハサミを持って切ると自分でも手に力を入れて切ることが出来た。二つ並んでいる菌床を見て「双子だよ」と嬉しそうに保育者に伝える。</p>
<p>活動の様子（写真・映像） <ul style="list-style-type: none"> ・こどもが夢中で取り組んでいる姿や、学びの瞬間をとらえた写真など <p>（公開OKのもの2枚以上）</p> </p>	
<p>振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・活動を通しての気づき ・こどもの思いや学びの考察 ・保育者の振り返り </p>	<p>三日目は少人数での活動となったが、成長している部分を自分で見つけて知らせるなど、観察力が育ってきている様子があった。間引き作業では保育者と一緒ではあったが、ハサミに自ら力を込めて参加し達成感を味わった様子。発する言葉にも、こどもなりの見立てや発想が広がっていた。少人数だからこそ、一人ひとりの気づきや興味を丁寧に受け止められる時間となった。</p>

日付	2025/12/1~12/3
「問い」 ・もうすぐ食べられるかな？	休み明けにはっきりと「きのこ」の形らしく成長していたけれど、どこまで大きくなるのか、保育者がもっとお水をあげてみようとする。
探究活動 ・活動中のこどもの姿、声、こども同士やスタッフとの関わり等。	毎日の水やりは積極的に行っている。きのこらしい形をしてきた姿に気づき「出てきたね」「大きくなってね」と保育者や友達と成長の共有をしている。「きのこはどこから来ているの？」など、なぜきのこが菌床から生えてくるのか不思議に思う姿もあった。収穫の前日にはかなり大きくなったので、捕りたそうにしいたけの傘を摘もうとする子もいた。
活動の様子（写真・映像） ・こどもが夢中で取り組んでいる姿や、学びの瞬間をとらえた写真、こどもの作品など （公開OKのもの2枚以上）	
振り返り ・活動を通しての気づき ・こどもの思いや学びの考察 ・保育者の振り返り	毎日の水やりを習慣として主体的に行い、保育者や友達と成長を言葉で共有する姿が増え、観察する楽しさが深まっていることが感じられた。 菌床から生えてくる仕組みに疑問を持つ姿も見られ、自然物への探究心がより育ってきていることがうかがえた。 継続した観察の積み重ねが、主体性と興味の深まりにつながっている。

<p>日付</p>	<p>2025/12/4</p>
<p>「問い」 ・どんな味がするかな？</p>	<p>収穫・調理・実食について「いよいよ、今日食べてみよう！」「手で獲ってみよう」「匂いを嗅いでみて」などの声掛けをする。こどもたちが積極的にしいたけを手に取り、きのこを五感で楽しめるように促す。</p>
<p>探究活動 ・活動中のこどもの姿、声、こども同士やスタッフとの関わり等。</p>	<p>収穫の場面では、自分から嬉しそうに手を伸ばして収穫する子、触るのを少しためらいながら様子うかがう子など、姿は様々であった。手に取ったしいたけをちぎって感触を確かめたり、縦に割いて形の変化を楽しんだり、匂いを吸い込んで味を想像したりと、子どもたちは五感を使って食材の“ふしぎ”を確かめていた。石突が丸ごと抜けた子は驚きでしばらく固まる姿があり、そのままの感情を全身で表す姿も印象的であった。</p> <p>調理後の実食では、できあがったしいたけをよく食べる子、硬く口を閉ざし食べない子、甘じょうゆの味付けで挑戦してみようとする子など、一人ひとりが自分のペースで関わっていた。</p>
<p>活動の様子（写真・映像） ・こどもが夢中で取り組んでいる姿や、学びの瞬間をとらえた写真、こどもの作品など （公開OKのもの2枚以上）</p>	
<p>振り返り ・活動を通しての気づき ・夢中になっていること ・こどもの思いや学びの考察 ・保育者の振り返り</p>	<p>収穫の場面では、積極的な子、慎重に関わる子など様々な姿が見られた。手でちぎる、縦に割く、匂いを確かめるなど、子どもたちは五感を使ってしいたけの変化や感触を楽しみながら探究していた。石突が丸ごと抜けるなど、菌類ならではの発見もあった。</p> <p>実食での反応は多様で、一人ひとりが自分のペースで関わっていた。</p> <p>栽培、収穫から調理、実食までの流れを通して、子どもたちはそれぞれのペースで主体的に関わり、感じたことを行動や言葉で表しながら食材・食への興味を深めていた。</p>